

(中間評価)

## 東三河 IT 食農先導士養成拠点の形成

(実施期間：平成 20～24 年度)

**実施機関：豊橋技術科学大学（代表者：榊 佳之）**

**連携自治体：愛知県，豊橋市，豊川市，蒲郡市，新城市，田原市**

### 課題の概要

生産時期や収量、品質が環境要因に左右される食農産業を安定化させるために、最先端の IT 技術を導入し、システムティックな工学的技術と思考力、環境即応型の農学的技術と思考力を有する「IT 食農先導士」を養成する。修業年限 2 年、1 期 25 人で、先端基礎農学、IT 生産管理技術、IT 経営管理技術、最先端施設での実務訓練を修得した者に「IT 食農先導士」の称号を与え、「東三河 IT 食農先導士」ネットワークを結成し、食農産業の活性化を通して地域再生に取り組む。

#### (1) 総合評価（所期の計画と同等の取組が行われている）

技術工学系大学としての専門性、特色を活かした工農連携に基づき、自治体、大学等機関、金融機関等と協働した人材養成が実施されており、養成目標人数など、所期の計画どおりに進捗していると評価できる。今後、地域を挙げたブランド化やマーケティングへの取組の強化、IT 食農先導士の知識や経験の地域活性化への活用と幅広い認知、東三河モデルとしての全国的普及を期待する。

<総合評価：A>

#### (2) 個別評価

##### ①進捗状況

養成人数の目標達成や新商品の開発など、所期の計画どおりの進捗を示していると評価できる。採択時に付された「eラーニングの質を高めるとともに質を担保するための体制づくり」などのコメントに対しても eラーニング開始前に対面授業を実施して当該学習法の効果を上げるなど適切に対応していることも評価できる。

##### ②人材養成手法の妥当性

工農連携を推進する先端農業バイオリサーチセンターを設置し、自治体、企業、金融機関等と連携のもと地域ニーズを反映した人材養成が実施されている。高いレベルの半導体、センサー技術を農業に応用しようとする試みだけでなく、その工学技術を活用した産業のシステム化まで踏み込んでいる点や、eラーニング、電子メールを活用した成績評価の実施、eラーニング開始前の対面式授業の取り入れなど、学習のモチベーションを維持する上でも効果的な学習手法が取られている点は高く評価できる。

##### ③実施体制・自治体等との連携

地域の関連研究機関、大学等からの講師派遣や包括連携協定を締結した愛知県を始めとする複数の地域自治体による営農支援、地域の 5 信用金庫による資金支援など、関係機関との緊密な連携の下で本プログラムが進められている。また、実務者会議などの各種会議も定期的で開催されており、プロジェクトの円滑な推進に努めていると評価できる。ブランド化、マーケティング等

の面で連携活動をより積極的に行うとともに、外部評価委員と実施機関との協働体制についてもより整備が図られることを期待する。

#### ④人材養成ユニットの有効性

地域の現状を反映した植物工場化という戦略は明確であり、修了者に新規営農や食農産業への一層の参画を促すような養成努力が払われるなら、IT食農産業のリーダーとして活躍することが期待できる。また、IT食農先導士ネットワークの整備や公開シンポジウムの開催、活動内容の報告「IT食農先導士便り」等の発行など広報活動も活発に行われている。今後、IT食農先導士の幅広い活躍と、その重要性の全国的な認知に向けた取組を期待する。

#### ⑤継続性・発展性の見通し

先端農業バイオリサーチセンターの大学既存のエレクトロニクス先端融合研究所への組み込みやNPO法人「IT-Agri」の設立など実施期間終了後の継続的、発展的な人材養成を見据えた計画が実行されている。今後、自治体や産業界との一層の連携強化、IT食農先導士ネットワークやサポートセンターの更なる活発化を図るとともに、既存組織との連携機動性を高める方策について検討し、実施期間終了後も高いレベルのIT食農先導士が継続的に養成されることを期待する。

### (3) 評価結果

総合評価	進捗状況	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性 の見通し
A	a	s	a	a	a